

1. 設備と器具

コート

コートは 5m×3m(図1 参照)

スローイングボックスは赤コート・青コートの2コートとし、投球する選手はスローイングボックス内に入り、それ以外の選手はコート後方に待機する。

ボール

1セットは、赤ボールが6個、青ボールが6個、白色のジャックボールが1個である。マイボールの使用も認める。(ボールの基準は国際ボッチャ競技規則による重量275g±12g 周長270mm±8mm)

2. チーム編成と競技方法

- ・チームは、3～5人で編成すること。
ゲームに参加する選手(3名)は障害者過半数以上で編成すること。
- ・エンド数は2エンドとする。競技時間は20分以内とし、競技時間内に開始していたエンドは有効とする。
1エンドとは、両チームが全てのボールを投げ終わったときとする。
- ・1人の持ち球は2球とし、投球順については規制しない。
- ・介助者が必要な競技者1名につき1名のアシスタントをつけることができるが、アシスタントは競技者に助言、指示等は出来ない。但し、重度の知的障害者への助言は認めることとする。
- ・選手交代はエンドとエンドの間で行うこと。
- ・選手は自分の試合の前には自コートに待機し、審判の指示ですぐにチームの交代ができるよう待機しておくこと。

3. 勝敗

- ・各エンドの得点を加算し、合計点がより多い方のチームを勝ちとする。同点の場合はタイブレイクにより決定する。
- ・タイブレイクは、ジャックボールをクロスに置き、じゃんけんまたはコイントスで先攻・後攻を決定する。投球は1人1投(チームで3投)とする。ジャックボールがマイボールの場合、最初に投球するチームのボールを使用する。
- ・順位の決定は勝ち数の多い方を上位とし、勝ち数が同じ場合は総得失点差の多い方を上位とする。それでも決定しない場合は直接対決の勝者を上位とする。

4. ゲームの展開

- (1) じゃんけんまたはコイントスで先攻・赤ボールと後攻・青ボールを決める。
- (2) 1エンド目は赤ボールの人が白のジャックボールを投げる。ジャックボールが有効だった場合、続けて同じ人が赤ボールを投げる。ジャックボールがファールの場合は、相手ボールとなり、青ボールの人がジャックボールを投げる。
- (3) ジャックボールのファールとは以下の場合とする。
 - ① Vラインを超えなかった
 - ② コートの外側に投げた
 - ③ ジャックボールを投げる選手が反則をした
- (4) 赤ボールの1人目→青ボールの1人目が投げ終わったら、次はジャックボールに一番近いチームの相手チームが先に投げる。例えば、ジャックボールに一番近いボールが赤だと青が投げる。以降、同様にジャックボールに一番近いチームの相手チームが投げ続ける。
- (5) スローイングボックス内であれば、選手の移動や投球方法は問わない。選手入れ替えの移動時はスローイングボックスの線を超えても構わない。

- (6) 以下の場合は口頭注意を行う。
- ① 線を超えて、または踏んで投球した場合
 - ② 審判が指示板を出す前にボールを触った場合、および投球者以外がボールを触った場合
 - ③ 審判に申告をせずにスローイングボックスを出てボールを見に行った場合
 - ④ ランプオペレーターがコートを見た場合
- (7) 投げたボールやぶつけられたボールがコート外に出た場合にはデッドボールとなり、出たボールは直ちに審判が所定の場所に撤去させる。
- (8) ジャックボールがぶつけられてコートの外に出た場合は、クロスに置き直し、ゲームを引き続き行う。両チームが全てのボールを投げ終わったら、エンド終了となり得点をつける。
- (9) 審判がジャックボールを取り上げた時点で1エンドが終了する。選手は異議がある場合、得点を発表してから審判がジャックボールを取り上げるまでの間に、手をあげ審判に申し出る。ゲーム中、進行等に異議がある場合は、手を挙げ審判に申し出ることを原則とする。

【図1】

